

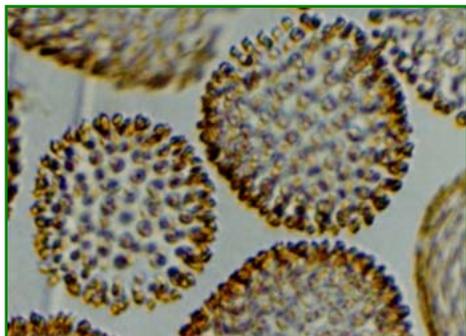
瀬田川プランクトン調査結果速報

～第49報～

滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター
環境生物担当
平成18年3月6日

1. 最も数が多かった種類(優占種)

植物プランクトン第1優占種



Uroglena americana
(ウログレナ)
黄色鞭毛藻類

楕円形の細胞が球状の寒天質の表層に規則正しく配列し、球状の群体を形成する。各細胞は不等長の2本の鞭毛を有する。

動物プランクトン第1優占種



Codonella cratera
(スナカラムシ)
繊毛虫類

壺のような固い殻を持ち、その殻は砂粒を含む。色は黒色で、前が開いていて、その後ろにくびれがある。

コメント

植物プランクトンは、先週に引き続き淡水赤潮を引き起こすウログレナ (*Uroglena americana*) や珪藻に属するホシガタケイソウ (*Asterionella formosa*) が多く計数された。動物プランクトンは、先週同様繊毛虫類に属するスナカラムシ (*Codonella cratera*) が340個体/l計数され優占種となった。またピコ植物プランクトンは、6,300細胞/mlと先週よりやや減少し、そのうち87%が黄橙色の種であった。

2. 見つかった主なプランクトンとその数(個体数)

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体/l)
繊毛虫類	<i>Codonella cratera</i>	340

第 2 優 占 種		個体数 (個体/l)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	280

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター
環境生物担当

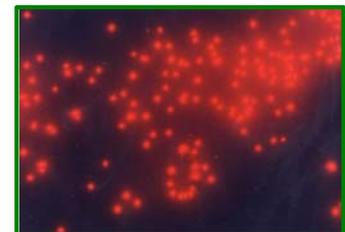
(2) 植物プランクトン

平成18年3月6日

第49報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	1200	◎	○
(黄鞭) <i>Dinobryon bavaricum</i>	40		
(黄鞭) <i>Mallomonas</i> sp.	20		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	140		
(珪) <i>Cyclotella</i> sp.	20		
(珪) <i>Fragilaria capucina</i>	40		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	440	○	
(珪) <i>Navicula</i> sp.	40		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	20		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	20		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	30		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	210		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	10		◎
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	1260	56.5	41.0
(珪) 珪藻綱	720	32.3	21.0
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	240	10.8	8.1
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	10	0.4	29.9
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	2230	総体積	1.07E+06
種類数	13	(μm^3)	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)
ただし * 印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位: %)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。



ピコ植物プランクトン
1,000倍G励起で撮影

(3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	3月6日 細胞数/ml
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	6,300

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが $0.2\sim 2\mu\text{m}$ ($1\mu\text{m}$ は1mmの1,000分の1)の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。